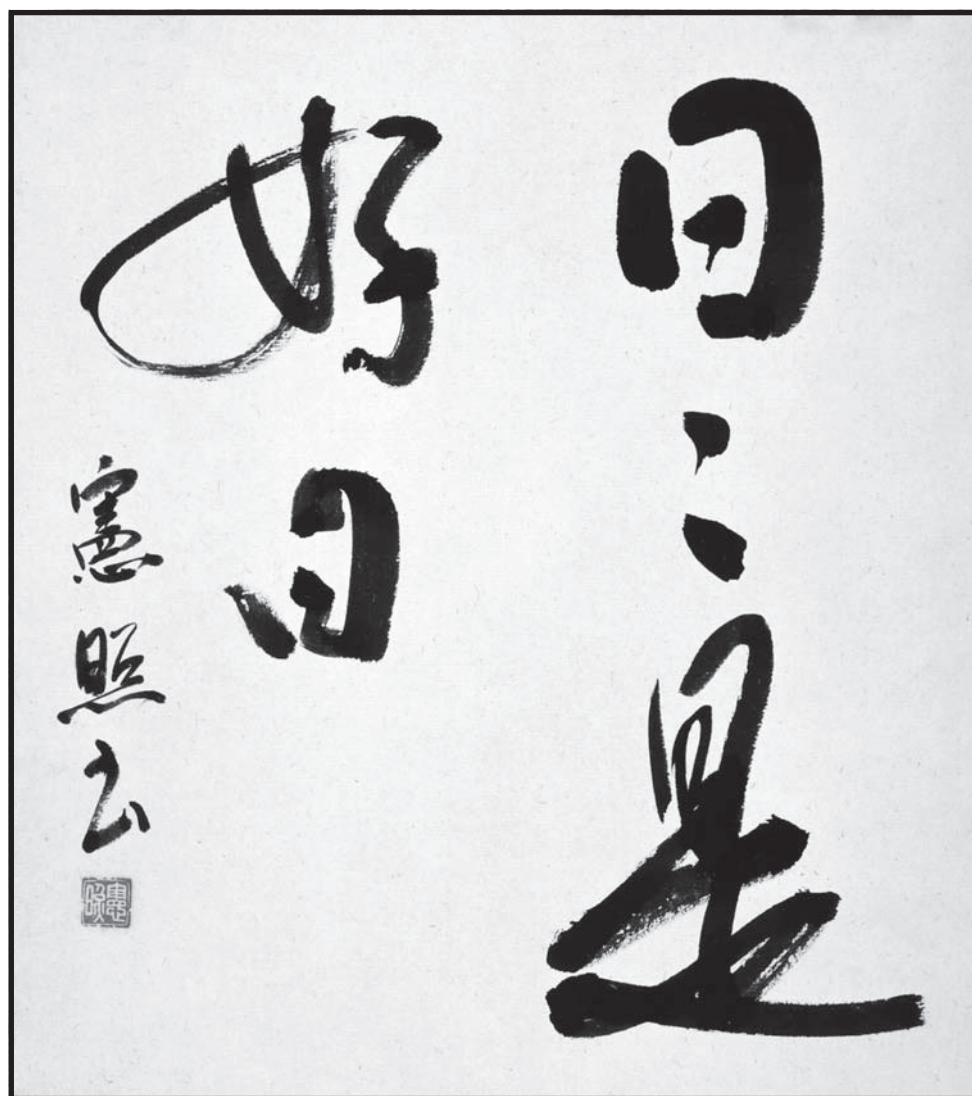


色紙を書く(11)

締切り 十一月二十四日(必着)

奥村 憲 照 先生 書



〔読み〕

にちじょうれこうじつ
日是好日

〔出典〕

へきがんとく
碧巖録

〔大意〕

毎日が平和で良い日であること。

◎暮らしの中で一番身近で、親しみのある「書」といえば『色紙』ではないでしょうか。

◎家の玄関や応接間、お店や事務所など、至る所で様々な色紙を見かけます。

◎お祝いや記念にプレゼントしたり、揮毫を求められたりする機会も少なくありませんが、いざとなると、中々うまく書けないものです。

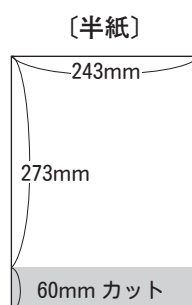
◎創立六十周年の今年は、奥村憲照先生の色紙作品を鑑賞するとともに、色紙の書き方を学びます。

◎色紙は特に、執筆者の個性が重んじられます。あまり手本にこだわらず、自己表現するつもりで自由に楽しんで書きましょう。

□作品の出し方

▼毛筆部Ⅱ左図のように半紙を六〇mmカットして書いて下さい。これが一般的に使用される大色紙のサイズ(二七三mm×二四三mm)になります。

※本物の厚紙の色紙はかさばるため、使用しないで下さい。(色紙練習用の薄手のものは可)



▼硬筆部Ⅱ右の大色紙を四分の一にすると、寸松庵色紙のサイズ(一三六mm×一一一mm)になります。

このサイズの紙を作るか、B5判の用紙に枠を引いてお書き下さい。用具は自由ですが、太目の筆記具(フェルトペン・マッチ棒・割り箸等)がよいと思います。

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・毛筆漢字の成績(硬筆の場合は硬筆規定の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

一般部規定課題

締切り 11月24日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

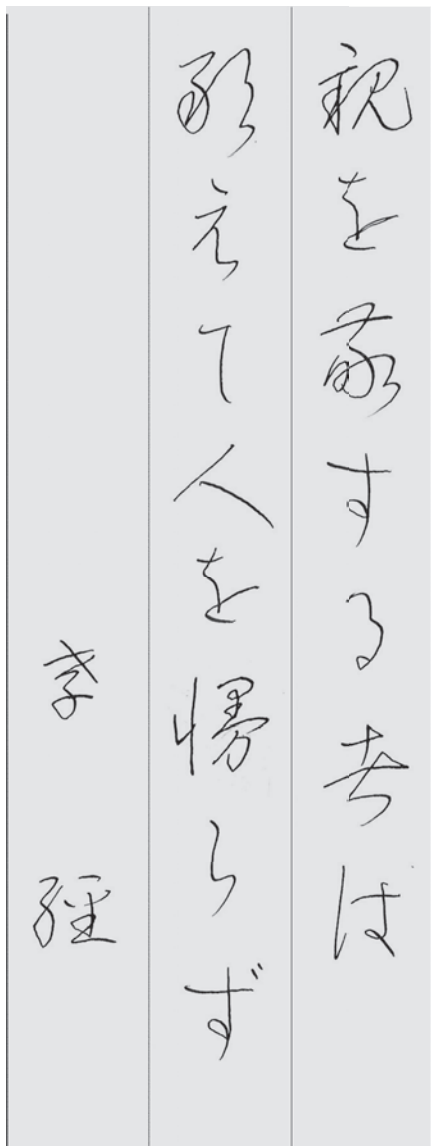
〔解説〕

〔読み〕親を敬する者は、敢えて人を慢らず 孝経



◎今月は草書。草書は暢達な線が大切だが、形となると私は三冊の字典で調べて使用されやすい形を手本にしているが、皆さんも字典で調べて変換して書いてみて下さい。

▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。



おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

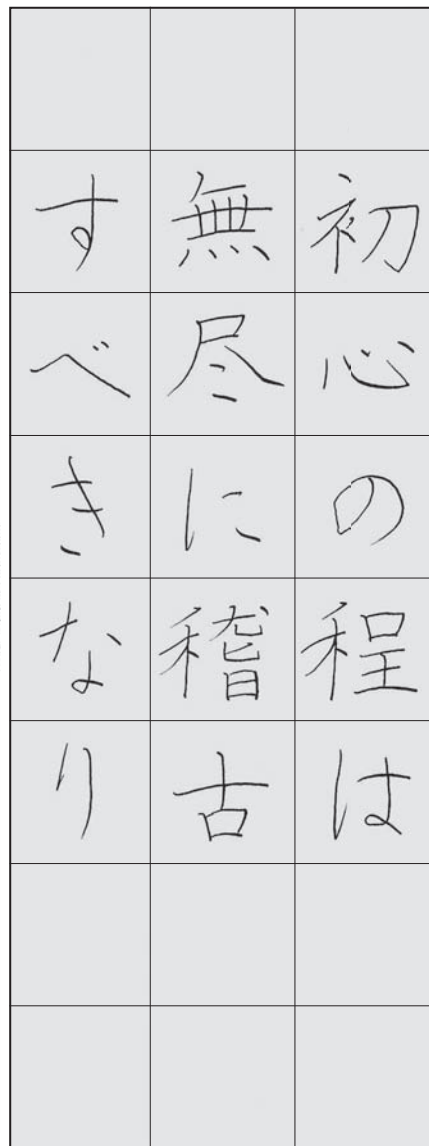
▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕



四本の縦線は等間隔に。



おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★初心…（書体＝楷書）

正徹（三六、四五九）

室町幕府の歌僧。「正徹物語」より
物事を習い始めた人は、まずはがむしやうに稽古に励むべきだと言っています。実践して体で覚えて、やっとその世界の入り口が見えてくるものです。理論はむしろ、それからの方が深く理解できるでしょう。体得して初めて、人も納得させることができるのです。

◆12月課題予告（行書）

食器は料理の

着物である

魯山人

★親を…（書体＝行草または草書）

孝経 儒教經典の一つ 論語ととも

に儒教倫理の普及に寄与した。

ここではまず、親孝行、親を敬愛する

ることの大切さを述べています。

その上で親を大切に敬愛する人は、

「少しも他人を軽んずることのない」、

立派な社会人になることを保証

しています。

◆12月課題予告（楷書）

時に及んでまさに

勉強すべし

歳月人を待たず

▼教範・書範＝行草または草書

▼師範＝行書

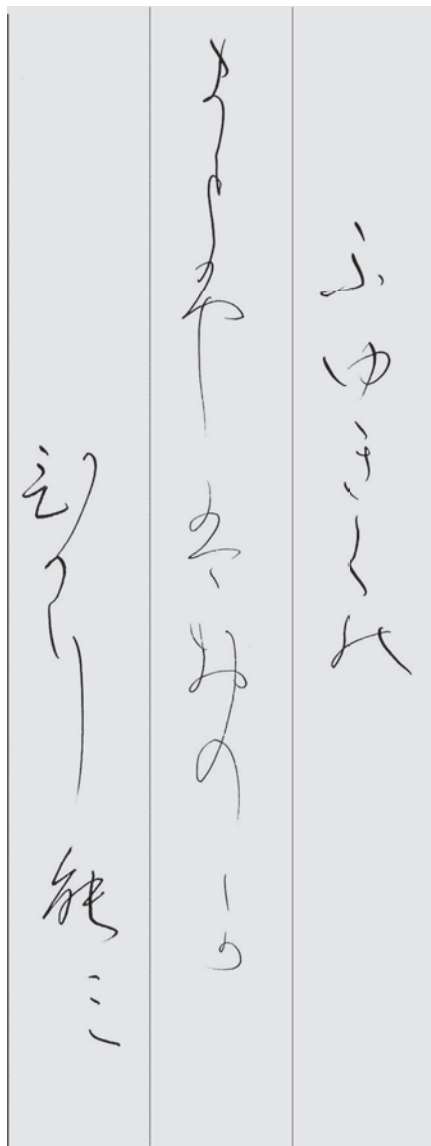
一般部かな課題

締切り 11月24日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

冬菊のまとふはおのがひかりのみ
ふゆきく 能
布 盤
可飛 可
能三



冬菊のまとふはおのがひかりのみ
乃 八 於 非 可
能三

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

	ふ	
	ゆ	冬
	き	菊
の	ま	と
ふ	の	
お	の	
が	ひ	
か	り	
の	み	

おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆12月課題予告
駒ヶ嶽凍てて巖を落しけり
こまがたけい いはほ おと
まえだ ふら

(前田普羅)

能の 飛ひ 非ひ 於お 盤は 布ふ
能 飛 非 於 盤 布
能 飛 非 於 盤 布
能 飛 非 於 盤 布
能 飛 非 於 盤 布
能 飛 非 於 盤 布

〔古筆参考〕

「句意」晩秋の庭を美しく彩っていた
草花も枯れ尽くして、今は冬菊がわず
かにのこっているばかりである。冬菊
は淡い日の光の中で、ただ己の光をま
とうだけである。それはいかにも、す
がすがしくも、寂しい感じを抱かせる
ことである。

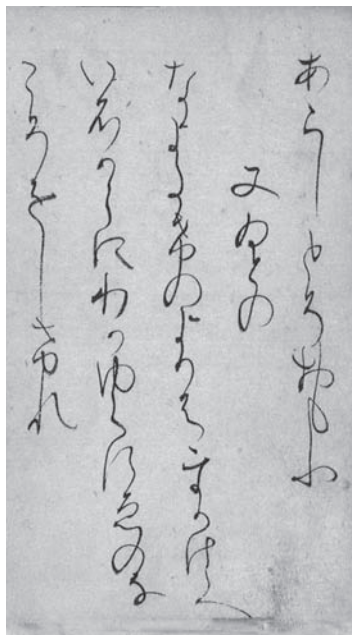
冬菊のまとふはおのがひかりのみ
ふゆきく
みずはらしゅうおうし
(水原秋桜子)

締切り 十一月二十四日（必着）

築瀬舟香書

〔古筆参考〕

いちじょうせっしょうしゅう
一条摂政集



あらじとぞおもふ

又、
ゐ
ど
の

な^多よ^希た^可け^者の^乎よ^可か^可は^可を^可か^可けて^弓

いふ^{不可}からにわが^可ゆくす^須急のな^奈

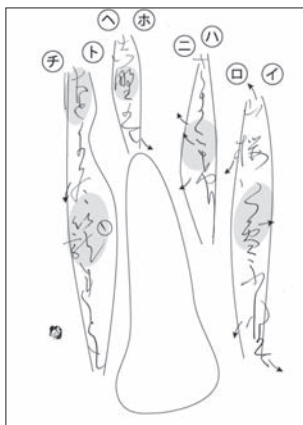
こそをしけれ曾希

山 桜 八つ 盤さ 支二 希
やまざくら 初雪降れば 咲きにけり
盤佐と 尔 籠 連
吉野は里に 冬ごもれども

〔歌意〕ここ吉野では、自分は里に冬籠りしているけれども、山桜は満開のように見える事だよ、初雪が降ると。

〔出典〕山家集（新潮日本古典集成）

〔解説〕



●①とニ、①とハ、①とチ、①とト
○ハとニ、ホとハ、トとチ、呼応。
●①とト、ハとニ、ホとハ、トとチの
行ふくらみ。

- 行のゆれ大切。

- 行の中の密の動き大切。

- ↓の指向性大切。

- ①の位置大切。

● ○ 余白 (間) 大切。

◆12月課題予告

花かれのにおく露やどに宿りし影よりも
枯野かれのの月はあはれなりけり

締切り 11月24日(必着)

いつも新米をお送り下さり有難う
ございます。炊き立てのご飯を、
おばあちゃんには味噌汁と漬け物で、
おじいさんは、卵がけにして頂いて
います。これこそ一番のご馳走と
家族皆、大変喜んでおります。

いつも新米をお送り下さり有難う
ございます。炊き立てのご飯を、
おばあちゃんには味噌汁と漬け物で、
おじいさんは、卵がけにして頂いて
います。これこそ一番のご馳走と
家族皆、大変喜んでおります。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。
(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

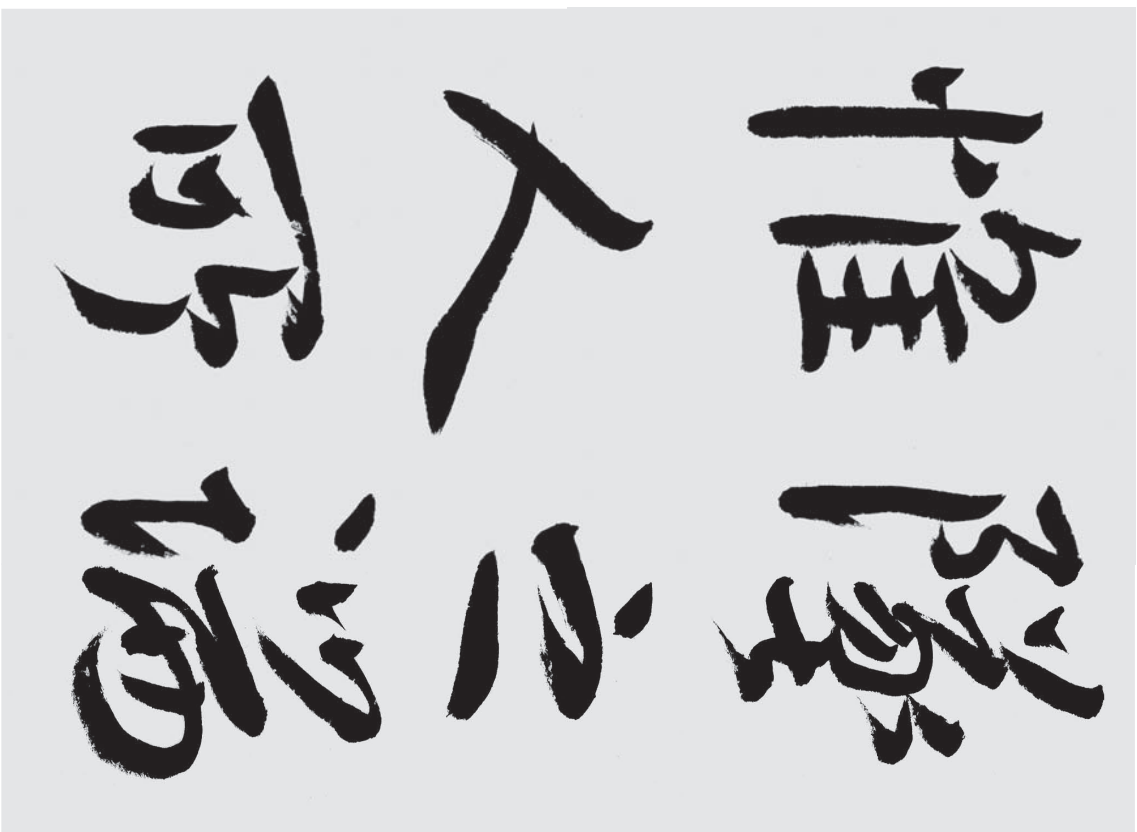
お 郷 すい こう
尾 郷 翠 光 書

夢二のメランコリックで情緒的な
少女の絵は、当時大流行した。
秋田県能代市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 11月24日(必着)

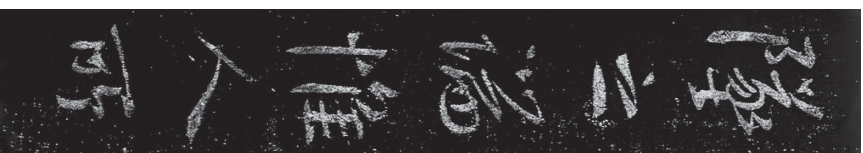


準初段から師範まで

新入から1級まで (楷書)

奥村暢之 臨
おくむら のぶ ゆき

須田一葉 書
すだ いち ちは



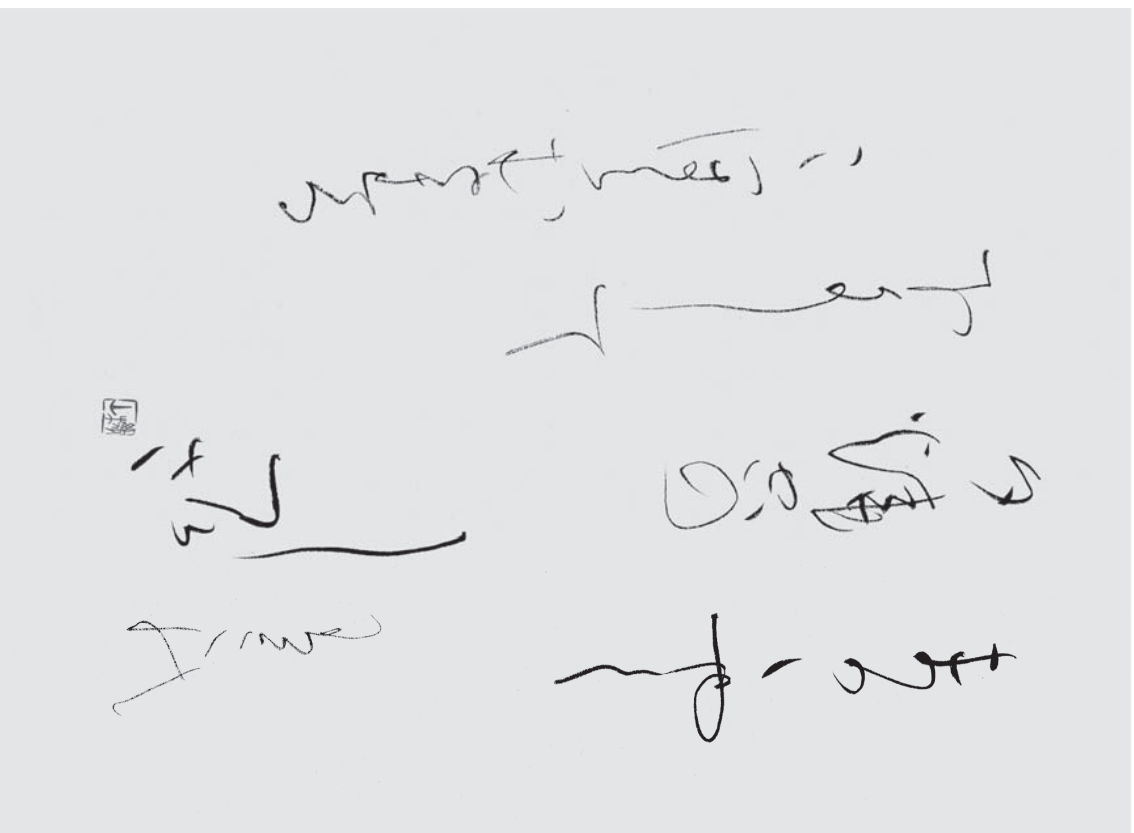
墜 之 端 惟 人 所

〔出典〕 集字聖教序（672） 〔筆者〕 王羲之法書より集字
〔読み〕 (昇) 墜の端は、惟だ人の（託する）所

〔読み〕 雁語雲に和して冷やかなり
〔大意〕 雁の鳴き声が雲に和して秋も深まってきた。

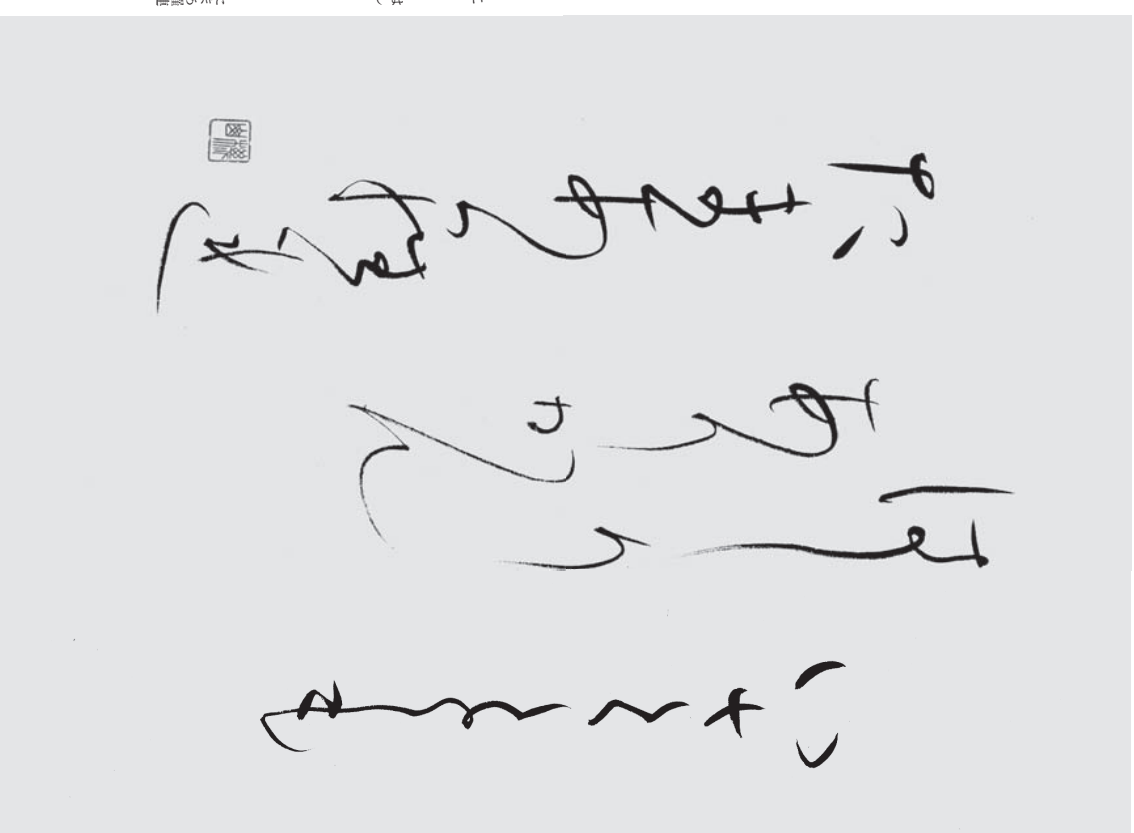
一般部毛筆かな課題

締切り 11月24日(必着)



【出典】 しまあかのこ
島本赤彦

【歌意】 美しくかかやく夕焼空の下で、いままさに凍ろうとしている湖の静けさよ。(湖は諏訪湖)



【出典】 まつおほしろう
松尾芭蕉

【句意】 ありかんは歩かんの意。上五、中七で切れ、軽くはずんだ心の調子がかかわれる。

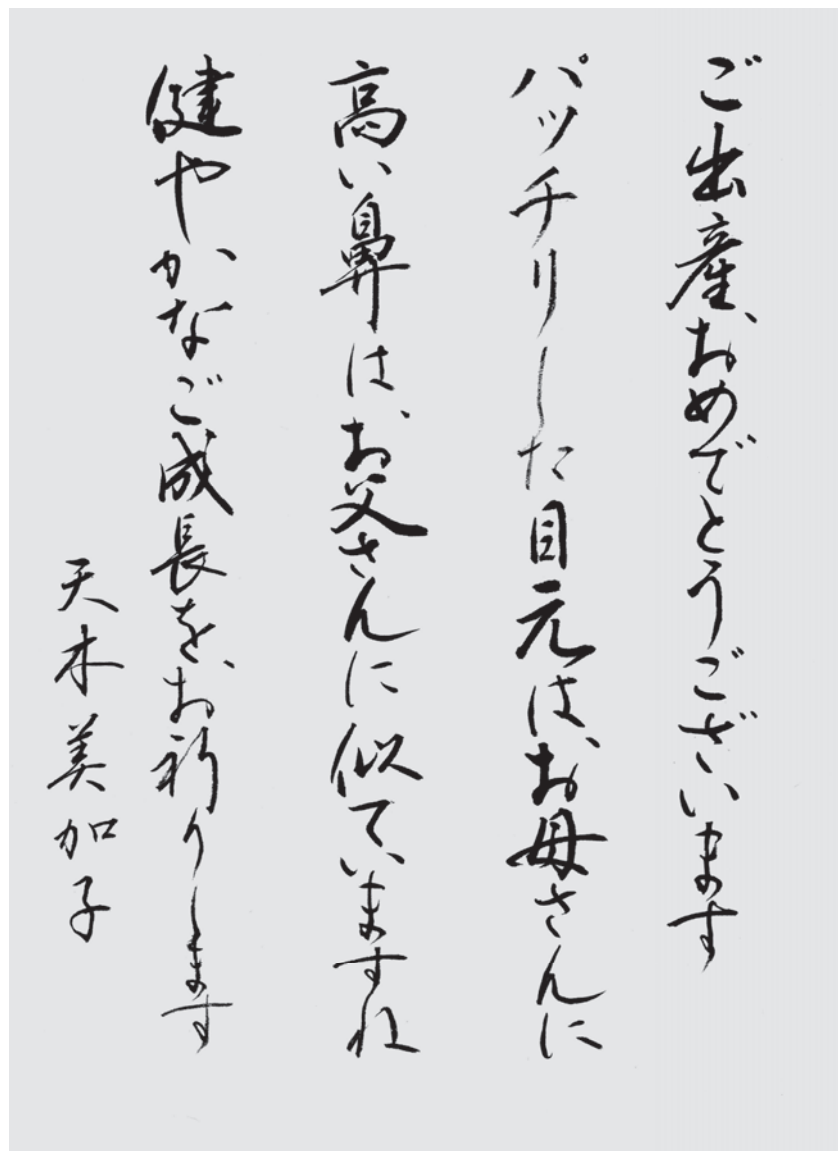
まかが、やく夕焼空の下にして
凍らむとする湖の静けさ

いぞ子ども走りありかん玉霞

新入から1級まで
浅井機山先生書

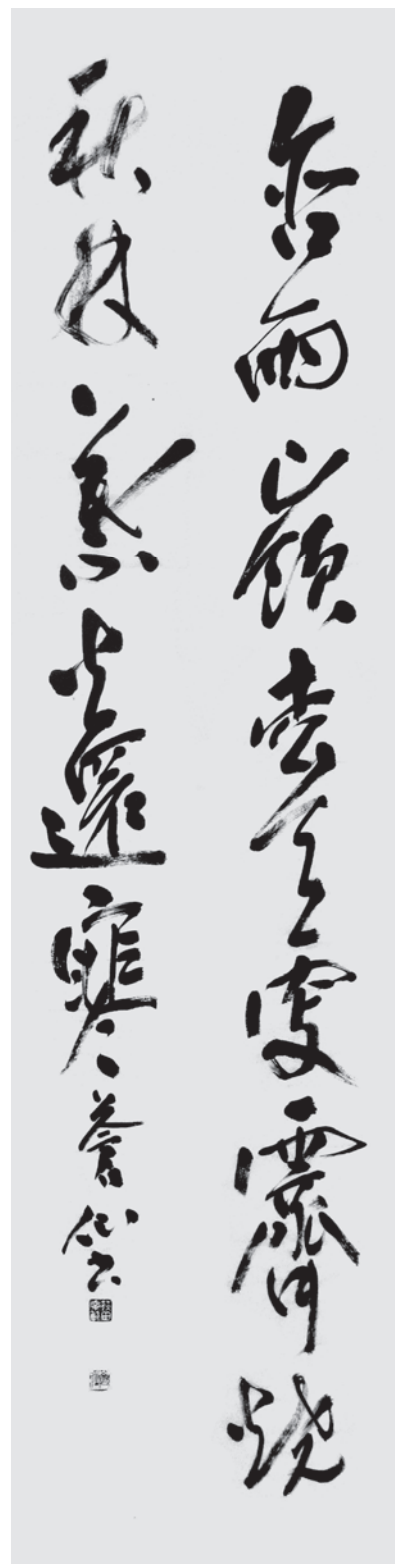
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334mm × 240mm)

書 華 玲 田 樋



締切り 十一月二十四日 (必着) 半切 (一三六cm × 三五cm)

萩 田 蒼 仙 書

含 雨 嶺 松 天 更 霽
あめをふくむれいしやうてんさらにはれたり
あきをやくりんようひかえってさむし
焼 秋 林 葉 火 還 寒

〔大意〕 峰の松が雨音を含むかと聞こえたのは松風の音で、天はいつそう晴れている。秋を焼くかと思えたのは紅葉で、火の色はかえって寒々としている。初出品の方へ

支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

〔条幅解説〕 細い線で紙面を圧するには、それなりの強い線が必要です。強い線……筆を前に倒して穂先が線の下を通る角度で運筆するのが手取り早い方法です。その細い線にも抑揚があり呼応して欲しいのですが、それが単調なのが私の作の欠点です。

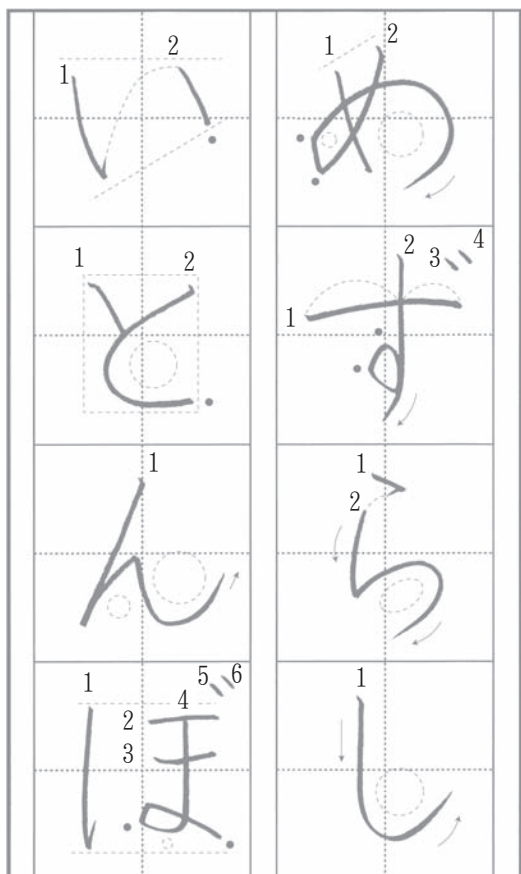
・ご出産おめでとうございませす
・パッチリした目元はお母さんに
・高い鼻はお父さんに似ていますね
・健やかなご成長をお祈りします
(ご自分の氏名)

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

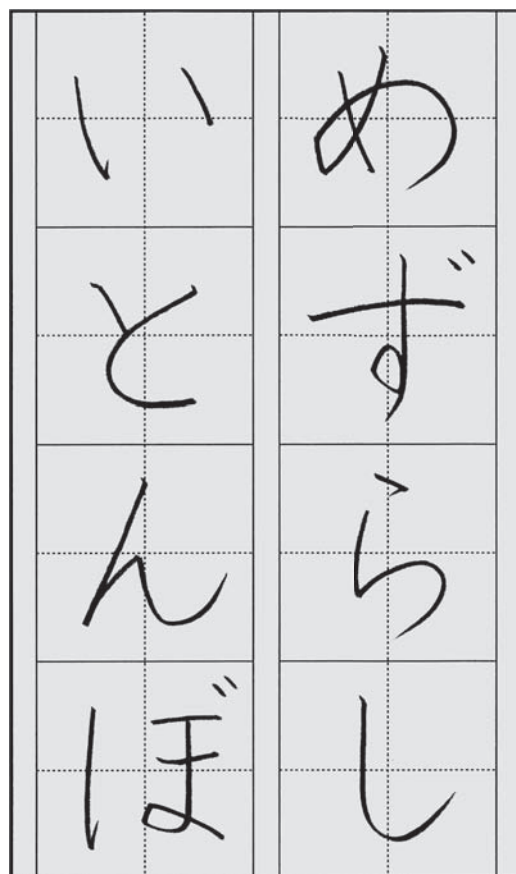
- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



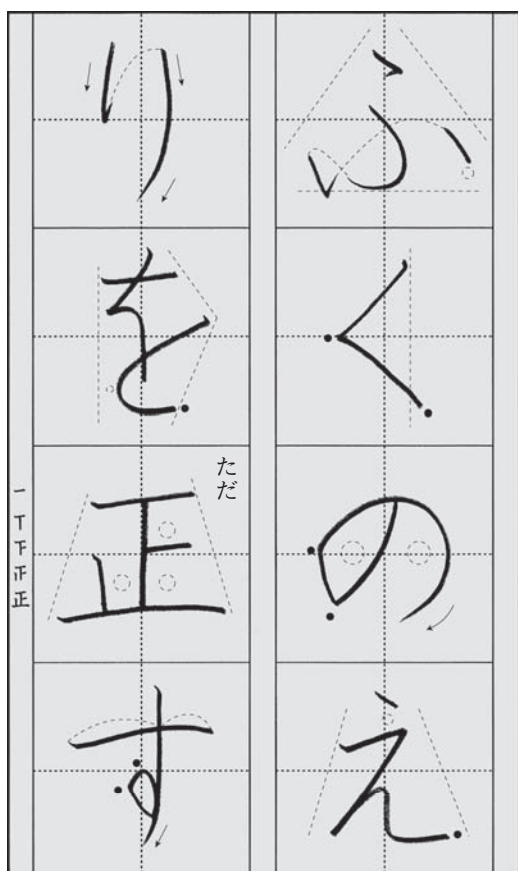
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



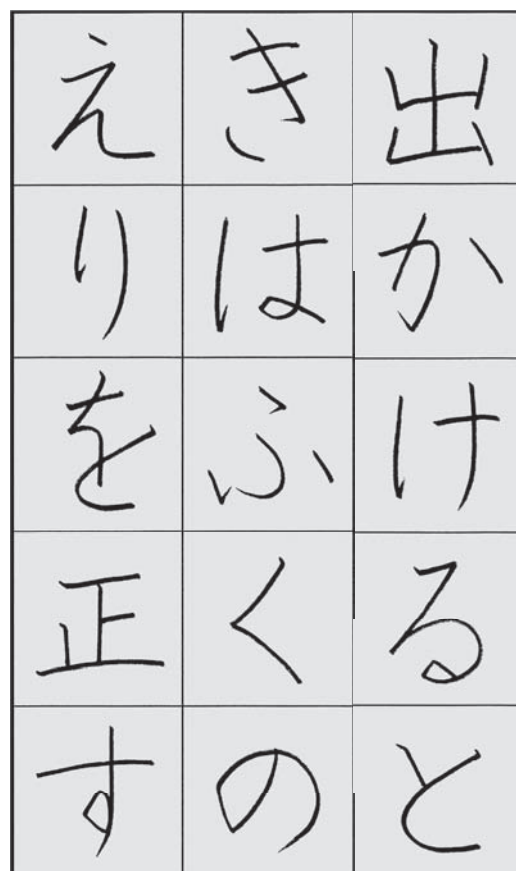
よ
う
年

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

一七	七	なの	一	イツ
一〇月日	日	か	週	シュウ
	あ		間	カン
	る		は	

新入〜1級

※七日「なのか」「なぬか」の二通りの読み方があります。

七	と	数
日	一	え
あ	週	て
る	間	み
ね	は	る

小二年

準初段以上

う	新	あた
漢	し	
字	く	
を	習	なら

新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

て	漢	新
お	字	し
ぼ	を	く
え	書	習
る	い	う

小三年

準初段以上

〈用具〉自由(黒色に限る)

は	秋
栄	の
養	実
が	り

新入1級

て	栄	秋
体	養	の
に	が	実
良	あ	り
い	っ	は

小四年

準初段以上

小四年以上
岡嶋桂川書

工	部
場	製
見	衣
学	造

解説(よく見て習いましょう)

工	を	テ
場	製	レ
の	造	ビ
見	す	部
学	る	品

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

〈用具 自由(黒色に限る)〉

潮	朝
時	予
刻	報
調	満

解説(よく見て習いましょう)

刻	報	朝
を	で	の
調	満	天
べ	潮	気
た	時	予

小六年

(全員)

船	出	東
で	港	京
海	す	湾
外	る	か
へ	客	ら

中二・三年

(楷書)

菓	と	小
子	牛	麦
を	乳	粉
作	で	と
る	お	卵

中一年

(楷書)

▼小三年以下の課題

はな 村 すい せん 書
花 翠 仙

聞 ^き	鼻 ^{はな}	お	夕 ^{ゆう}	キ
こ	歌 ^{うた}	母 ^{かあ}	食 ^{しょく}	ッ
え	が	さ	作 ^{つく}	チ
て		ん	る	ン
く		の		か
る				ら
よ				



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 11月24日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよい。

▼小四年以上の課題

やま かど りょく じょう 書
山 門 緑 城

飛 ^ひ	数 ^{すう}	広 ^{ひろ}	こ	両 ^{りょう}
来 ^{らい}	百 ^{ひゃく}	い	の	親 ^{しん}
し	羽 ^は	湖 ^こ	時 ^じ	の
ま	の	畔 ^{はん}	期 ^き	故 ^こ
す	白 ^{はく}	に		郷 ^{きょう}
	鳥 ^{ちょう}			で
	が			は



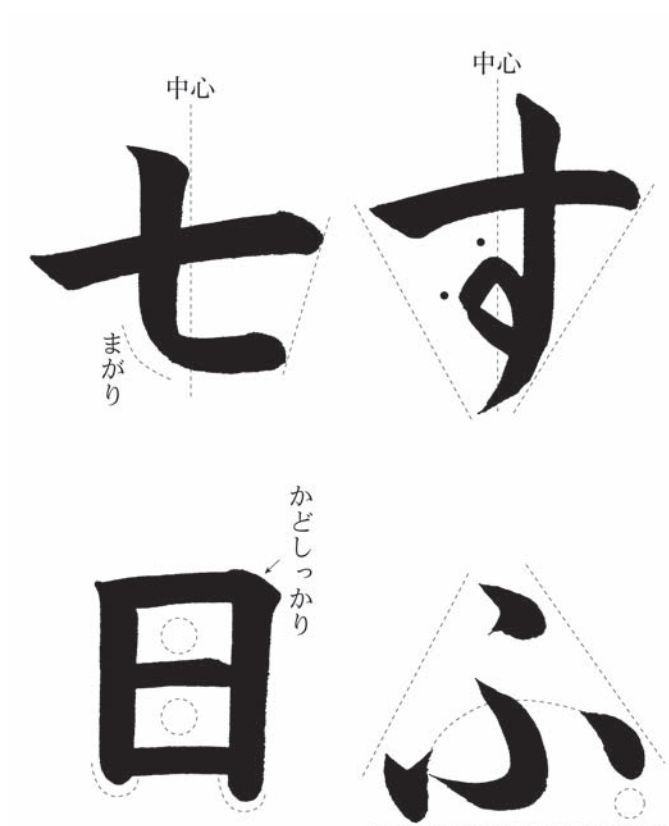
◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



幼年／小二年
玉樹小
華書



小五
工場見学

新しい

工場見学
新実秋

小四
実りの秋

小三・小五年

水野香竹書

中二三
出 東
港 京

小六
予 天
報 氣

乳 京 港
予 報 卵

中一
牛 卵
乳 と

小六・中二・三年
奥村暢之書